

# I. 長期戦略テーマ別帳票

## テーマ「理系研究室の充実」

提出日 2022年 8月 22日

長期戦略テーマの責任者  
(統轄部署)

副学長(大学院)  
林 隆敏  
(学長室(院))

### 1. 長期戦略のテーマ

超長期ビジョン	長期戦略(テーマ名)	統轄部署
2 大学院教育	(2) 理系研究室の充実	学長室(院)
<b>内容</b>		
<p>本大学理工学研究科においては、一定数の大学院生を確保することが教員の研究活動と直結するだけでなく、学部・大学院の教育、後期課程への進学者数、研究者の輩出数等とも深く関連するため、本大学理工学部から前期課程への進学者比率 60%以上を確保する。</p> <p>そのために、学部入学直後のオリエンテーションから大学院進学への価値(高度な研究の魅力、研究開発職への就職率、大学院卒の年収・生涯賃金の高さ等)をデータに基づいて説明し、進学を意識づける。また、他大学大学院への流出を防ぐためにも、例えば学士・修士の5年一貫コースの設置など修学期間を短縮する施策等をとおして、学生が専門性を活かした研究開発職での就職を目指す。</p> <p>研究者を目指す者のためには、原則、日本学術振興会の特別研究員採用者に限って後期課程修了後に任期制助教への採用を保証してキャリアパスを可視化し、研究者への道筋を示す。特別研究員に採用されるための支援は学部生時代から担当教員だけでなく専門知識を有したURAが行う。</p> <p><b>【フェーズ I の Total Review】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院科目の先取り履修制度を導入し、内部進学者を安定的に確保するための素地が出来上がった。</li> <li>・博士課程前期課程修了者の研究開発職就職率については、まだ現状分析のみであるため、具体的な検討が必要。</li> <li>・2021年度の再編を受けて、博士課程の充実に向けた大学院の改組が必要。</li> </ul> <p><b>【フェーズ II に向けた課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院改組の検討</li> <li>・企業等との共同研究実績及び研究開発職輩出状況の可視化</li> <li>・アントレプレナー育成のための「KSCベンチャーラボ(仮称)」の実現</li> </ul>		

# I. 長期戦略テーマ別帳票

## テーマ「理系研究室の充実」

提出日 2022年 8月 22日

長期戦略テーマの責任者  
(統轄部署)

副学長 (大学院)  
林 隆敏  
(学長室 (院))

### 指標 1

指標	内容					
指標名	理工学部から本学前期課程への進学率					
定義・算式	理工学部から本学前期課程への進学率					
現状値 (指標設定時)	約 35%					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
	50%以上		55%以上		60%以上	
実績値	2019 年度	40.52%	2022 年度		2025 年度	
	2020 年度	36.93%	2023 年度		2026 年度	
	2021 年度	39.52%	2024 年度		2027 年度	

### 指標 2

指標	内容					
指標名	前期課程修了者の研究開発職への就職率					
定義・算式	前期課程修了者の研究開発職への就職率					
現状値 (指標設定時)	25.6% (2016 年度)					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
	30%以上		40%以上		50%以上	
実績値	2019 年度	49.5% (暫定値)	2022 年度		2025 年度	
	2020 年度	55.4%	2023 年度		2026 年度	
	2021 年度	46.2%	2024 年度		2027 年度	

# I. 長期戦略テーマ別帳票

## テーマ「理系研究室の充実」

提出日 2022年 8月 22日

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	副学長(大学院) 林 隆敏 (学長室(院))
-----------------------	------------------------------

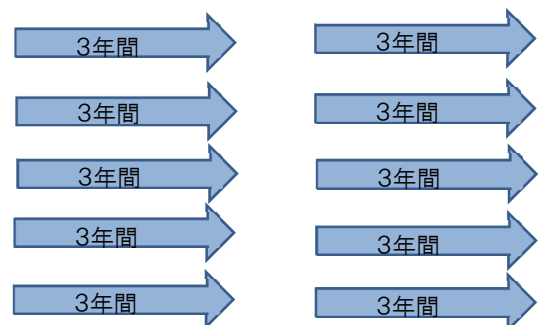
### 2. 実施計画ロードマップ

実施計画	担当部署	学部・研究科での 取組み有/無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
① 学部から前期課程への進学率増の施策	理工	必要なし			3年間 →						
② 前期課程から研究開発職への就職率増の施策	理工	必要なし			3年間 →						
③		必要の有無を選択ください。									
④		必要の有無を選択ください。									
⑤		必要の有無を選択ください。									
⑥		必要の有無を選択ください。									
⑦		必要の有無を選択ください。									
⑧		必要の有無を選択ください。									
⑨		必要の有無を選択ください。									
⑩		必要の有無を選択ください。									
【備考欄】											

※想定される実施計画の例示

- ① 大学院進学・5年コース設置等のシミュレーション実施
- ② 大学院進学説明会の実施
- ③ 学部1年生と卒業生との懇談会実施
- ④ 学士・修士5年(4年)一貫コース設置の検討(再掲)
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩

※ロードマップ策定作業用記号



# I. 長期戦略テーマ別帳票

## テーマ「理系研究室の充実」

提出日 2022年 8月 22日

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	副学長 (大学院) 林 隆敏 (学長室 (院))
-----------------------	--------------------------------

### 3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計 (2019年度～2027年度)

#### ◆フェーズⅠ：2019年度～2021年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2019年度	2020年度	2021年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

#### ◆フェーズⅡ：2022年度～2024年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2022年度	2023年度	2024年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

#### ◆フェーズⅢ：2025年度～2027年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2025年度	2026年度	2027年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

# I. 長期戦略テーマ別帳票

## テーマ「理系研究室の充実」

提出日 2022年 8月 22日

長期戦略テーマの責任者  
(統轄部署)

副学長 (大学院)  
林 隆敏  
(学長室 (院))

### 4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
2019年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部から前期課程への進学率増の施策として大学院科目早期履修制度設計を完了させた。</li> <li>前期課程2年生を対象にしたアンケート、教員が企業を訪問し人事担当者と意見交換を行った。次年度それらの内容の分析を行い研究開発職相当の職種の精査をする。</li> </ul>
2020年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年度の理工学部4年生のうち、大学院科目早期履修者数は145名。早期履修制度の理工学研究科への接続効果については今後検証を行っていく。</li> <li>前年度末のアンケート結果をもとに懇談を実施した(6月)。</li> <li>文部科学省の施策「企業との連携による長期有給インターンシップ」推進協議会への参画を決定しており、本取り組みを推進し修士課程学生の研究開発職への就職支援につなげる。</li> </ul>
2021年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>2021年度の理工学部4年生のうち、大学院科目早期履修者数は181名。早期履修制度の理工学研究科への接続効果については引き続き検証を行っていく。</li> <li>前年度末のアンケート結果をもとに懇談を実施した(6月)。</li> <li>文部科学省の施策「企業との連携による長期有給インターンシップ」推進協議会への試行的参加により4名の後期課程生の志願者があり、1名がマッチングした。本取り組みを推進し修士課程学生の研究開発職への就職支援につなげる。</li> </ul>
2022年度	
2023年度	
2024年度	
2025年度	
2027年度	